

生活単元学習 学びづくり案

- 1 日時 2025 年（令和 7 年）10 月 31 日（金）
- 2 学年 知的障害特別支援学級
（第 5 学年 2 名、第 4 学年 1 名、第 2 学年 1 名、第 1 学年 2 名） 計 6 名
- 3 単元名 お米作りにチャレンジ！～調べてみよう、おいしいお米料理～

4 単元について

（1）児童観

本学級の児童は、明るく穏やかで、仲がよい。バケツ稲作りは、今年で 3 年目になる。継続して取り組んでいる活動であるので、上学年を中心にどのような作業をして、どのように育つかを知っている。見通しをもって活動できていて、進んで水やりをしている。教室の前のテラスで栽培していると毎日見ることができるので、稲の様子を注意深く見て、その変化にもよく気が付き、関心も高い。5 月からの田おこし・しろかき、発芽から田植え、7 月中干し、9 月鳥対策の作業を体験することで米作りの過程と作業の意義が分かると同時に、6 月分けつ、8 月出穂などの稲の生長を継続して観察することで、「稲を丈夫に育てたい。」「たくさんのお米が実ってほしい。」という気持ちをもつことができる。

個々の活動の様子は、第 4 学年及び第 5 学年の児童はお米を育てることが 3 年目になるので、お米の育て方が分かってきている。観察や調べ学習に慣れてきているが、細かい字を読んだり、漢字が苦手だったりし、自分のペースでゆっくり取り組むので時間がかかることがある。学校図書館では、興味のある本や図鑑を自分で選んで借りて、読んでいる。第 1 学年及び第 2 学年の児童は、育てている稲に水やりをしながら、葉が大きく伸びていく様子、実際に稲穂が出始めている様子を見てお米が収穫できることを楽しみにしている。タブレット端末で、稲の写真を撮ってスライドを作ることにも興味をもって取り組んでいる。ひらがなが読める児童とひらがなが読めない児童がいるが、ともに図書資料への興味はまだ薄く、集中力が短い。課題の理解が難しいため、困難なことが多々ある。上学年の助けを支援に取り組んでいるところである。

児童の個々の特性を大切にするために、児童の実態を踏まえて、それぞれのペースに合わせて、米に関する分かりやすい絵本や図鑑及びタブレット端末（スライド作り、音声入力による検索など）を活用して授業を進めているところである。

（2）単元観

本単元では、春から秋までの長期間に渡り、バケツで米作りの体験活動を行う。春には、昨年度育てた米から発芽させ、初夏から夏にかけて稲をバケツで育てる。秋には、稲刈りを行い、収穫したもみから脱穀・もみすり・精米する活動、白米の調理を行うことで、主体的・探求的な学びにつなげていくことをねらいとしている。

特に、米は日本の食生活の中心に位置付けられており、児童にも身近な親しみのある食材である。しかし、一方で、都市化が進むにつれて、稲を田んぼで育てている様子を見ることができにくくなっている。そこでバケツ稲の栽培活動を通して、発芽及び稲の育ち方、出穂と開花・結実を観察して、植物の成長を学び、米ができる過程を理解できるようにする。

また、米の学習は、どの学年の教科とも関連をもちやすいので、多様な学習ができる。生活の観点からは、田んぼに生息する生き物や水の大切さと役割や米を使った料理・食品などを広く学ぶことができる。個別の興味や関心に応じて、課題を設定し、「お米や田んぼの様子を紹介しよう」をテーマに絵本や図鑑を使って情報を取り出す調べ学習を適宜進める。

そして、自分たちで育てた米の成長と調べて分かった田んぼの生き物やお米料理などの情報を伝え合うことで豊かな表現力を伸ばすことができる単元であると考ええる。

(3) 指導観

- ・ 米作りの作業・観察については、長期間に渡るので、単元計画をもとにした「お米作りカレンダー」を見ながら、見通しをもって学習できるようにしていき、教科を横断的に学ぶカリキュラムマネジメントを行う。
- ・ お米を使った料理について絵本や図鑑、料理本で調べる活動では、自分が選んだ、食べてみたい、作ってみたい料理が一目でわかるように付箋を用意し、教材・教具の工夫をする。
- ・ 実際に、本を見ながら、2、3人の小グループで意見交流（話し合い活動）をしていく。意見交流のポイントとして、「どんなお米料理があったか。」「食べてみたい、作ってみたいお米料理」「食べてみたい、作ってみたいと思った理由」を黒板に分かりやすく示し、深く考えたくなるしかけを行う。
- ・ 表現方法の指導では、上学年の児童が話し合いカードにメモしながら、意見交流（話し合うように）できるようにしていく。意見交流の後、全体で発表することを事前に伝えておき、児童主体で発表の担当を役割分担したり、読む練習をしたりすることができるようにしていく。
- ・ 学校図書館の活用については、授業において児童が課題を発見することができる導入の工夫として、ブックトークを行い、学校図書館・中央図書館にあるお米を使った料理に関連する本を発達段階に合わせて選定し、3種類、合計15冊程度紹介する。その際には、図書館補助員と連携し、お米を使った料理、お米を利用した食材に関連した図書資料を選定しておく。

5 単元の目標

- バケツ稲栽培の体験（田植え・稲刈り・脱穀などの活動、稲・米の観察）を通して、稲の育ち方及び米作りについて知ることができる。【知識及び技能】
- 稲の育ち方及び米作りについて分かったことをかいたり、記録したりして、適切に表現し、分かりやすく伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 米作りに興味をもって、進んで作業したり、観察したりして、米のよさや大切さに気付くことができる。【学びに向かう力、人間性等】

6 単元計画(全 22 時間)

次	時期	学習活動案	学校図書館活用のポイント	評価規準
1	5月	○田おこし・しろかきをしよう。 ○脱穀して、種もみを取り出そう。 ○種もみを観察して、種まきをしよう。 ○春の田んぼ・野山の生き物の様子を調べよう。	・図書資料で、春の田んぼ・野山の生き物の様子についての情報を収集する。	○田おこし・しろかき、脱穀、種まきの仕方を知って、実践している。【知】 ○春の田んぼ・野山の生き物の様子に興味・関心をもっている。【主】
2	6月	○発芽を観察しよう。 ○苗を観察しよう。 ○夏の田んぼ・野山の生き物の様子を調べよう。 ○春から夏へ・生き物なかよし会をしよう。	・図書資料で、夏の田んぼ・野山の生き物の様子についての情報を収集する。	○発芽・苗の様子を表現している。【思】 ○夏の田んぼ・野山の生き物の様子に興味・関心をもっている。【主】
3	7月	○分けつを観察しよう。 ○中干しをしよう。		○分けつの様子を表現している。【思】 ○中干しの仕方を知って、実践している。【知】
4	8月	○稲穂を観察しよう。		○稲穂の様子を表現している。【思】 ○稲穂に興味・関心をもっている。【主】
5	9月	○稲を守ろう。 ○黄金色の稲を観察しよう。 ○秋の田んぼ・野山の様子を調べよう。 ○夏から秋へ・生き物なかよし会をしよう。	・図書資料で、秋の田んぼ・野山の様子についての情報を収集する。	○稲を守るための方法を知り、作業に取り組んでいる。【知】 ○黄金色の稲穂や秋の田んぼ・野山の様子に興味・関心をもっている。【主】
6	10月	○落とし水をしよう。 ○稲刈りをして、稲を干そう。(はさがけ) ◎本で調べて、お米を使った料理を伝え合おう。(本時)	・図書資料で、お米を使った料理についての情報を収集する。	○落とし水の意義、稲刈りの仕方・干し方を知って、実践している。【知】 ○お米を使った料理について調べたことを、友達に伝え合っている。【思】
7	11月	○脱穀、もみすり、精米をしよう。 ○お米を使った料理を作ろう。		○脱穀、もみすり、精米の仕方を知って、実践している。【知】 ○白米調理に進んで取り組んでいる。【主】
8	12月	○お正月飾り(しめ縄)を調べて、わらを使って作ってみよう。 ○米作りについてまとめよう。	・図書資料で、お正月飾りについての情報を収集する。	○わらを使う方法を知り、作業に進んで取り組んでいる。【主】 ○米作りの記録を整理し、お米について調べて分かったことをまとめている。【思】

7 本時の目標

(1) 全体目標

- お米を使った料理に関連する本を選んで、読んだり、調べたりすることができる。(知識・技能)
- お米を使った料理について調べたことを友達に伝え合うことができる。(思考・判断・表現)
- ブックトークを聞き、お米を使った料理に関連する本に親しむことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

教科を横断的に学ぶカリキュラムマネジメント

(2) 本時の学習展開		学びづくりの留意点					
・学習活動○発問◎評価規準		A児（5年）	B児（5年）	C児（4年）	D児（2年）	E児（1年）	F児（1年）
個別の目標		・お米を使った料理について調べたことを友達に積極的に伝え合うことができる。	・お米を使った料理について調べたことを進んで友達に伝え合うことができる。	・お米を使った料理に関連する本に興味を持ち、自分で選んで、読んだり、調べたりすることができる。	・お米を使った料理に関連する本を自分から選んで、読んだり、調べたりすることができる。	・ブックトークを聞き、お米を使った料理に関連する本に進んで親しむことができる。	・ブックトークを聞き、お米を使った料理に関連する本に興味をもって、親しむことができる。
1. 本時の活動内容を聞く。(3分)		めあて：本で調べて、お米を使った料理を伝え合おう。					
2. お米を使った料理に関連する学校図書館・中央図書館にある本のブックトークを聞く。(7分) <div>児童が課題を発見することができる導入の工夫</div> ○お米を使った料理に関連する本について聞きましょう。 ◎ブックトークを聞き、お米を使った料理に関連する本に親しんでいる。		○学校図書館・中央図書館にあるお米を使った料理に関連する本を発達段階に合わせて選定し、3種類、合計15冊程度紹介する。(ブックトーク) ・米・イネ・お米のひみつ ・すがたをかえるシリーズより(米) ・お米を使った料理の本 <div>学校図書館活用のポイント</div> ・図書館補助員と連携し、選定しておいたお米を使った料理、お米を利用した食材に関連した図書資料で調べる。					
3. お米を使った料理について絵本や図鑑、料理本で調べて、作ってみたい料理に付箋を貼る。 <div>教材・教具の工夫</div> ○お米を使った料理について本で調べて、作ってみたい料理に付箋を貼りましょう。(10分) ①絵本や図鑑、料理本で調べる。 ②作ってみたい料理に付箋を貼る。 ◎お米を使った料理に関連する本を選んで、読んだり、調べたりしている。		・お米を使った料理本・すがたをかえるシリーズ(米)などの本を参考にしながら、作ってみたい料理に付箋を貼るよう助言する。	・お米を使った料理本・すがたをかえるシリーズ(米)などの本のお米料理の写真を示しながら、作ってみたい料理に付箋を貼るよう助言する。	・すがたをかえるシリーズ(米)・お米のひみつ図鑑などを参考にしながら、作ってみたい料理に付箋を貼るよう助言する。	・すがたをかえるシリーズ(米)・お米のひみつ図鑑などのお米料理の写真を実際に示しながら、作ってみたい料理に付箋を貼るよう助言する。	・本や図鑑で興味をもって調べられるように、ご飯やおむすびについて描いた分かりやすい絵本・図鑑を用意する。	・本や図鑑で興味をもって調べられるように、ご飯やおむすびについて描いた分かりやすいページを示しながら提示する。
4. 調べて分かったことを友達に伝え合う。(話し合い活動)(20分) ○お米を使った料理について調べて、分かったことを友達に伝え合ひましょう。 ◎お米を使った料理について調べて、分かったことを友達に伝え合っている。		・本を見ながら、2人組か3人組で意見交流(話し合い活動)をする。 ・意見交流のポイント「どんなお米料理があったか。」 「食べてみたい、作ってみたいお米料理」 「食べてみたい、作ってみたいと思った理由」を示す。 <div>深く考えたくなるしかけ</div> ・話し合いカードにメモしながら、意見交流(話し合うように)する。 ・意見交流の後、全体で発表する。 <div>表現方法の指導</div>					
4. ふりかえりをする。(5分) ○今日の学習をふりかえりましょう。 ①新たに調べて、気が付いたことや感想を発表する。 ②次の学習の見通しをもつ。		・本時の達成感を感じることができるようにするために、児童のつぶやきを聞きながら意見を交流し合うようにする。 ・友達と話し合い活動をした感想を、表情カードに名前カードを貼って示し、友達と一緒に学び合うことの良さを感じることができるようにする。 <div>学びをつなぐ振り返り</div> ・本や紹介・話し合いカードを見ながら、次時の学習への期待をもてるようにする。					

お米作りにチャレンジ！～調べてみよう、お米を使った料理～

めあて：本で調べて、お米を使った料理を伝え合おう。

活動の流れ

活動の
イラスト

活動の
イラスト

活動の
イラスト

活動の
イラスト

活動の
イラスト

ブックトーク → 調べる → 話し合う → 発表する → ふり返る

話し合うポイント

1. どんなお米料理があったか？ おにぎり、チャーハン

2. おすすめのお米料理

カレー、たきこみごはん

3. おすすめにえらんだ理由

ふりかえり

・分かったこと

• 感想



本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

1